
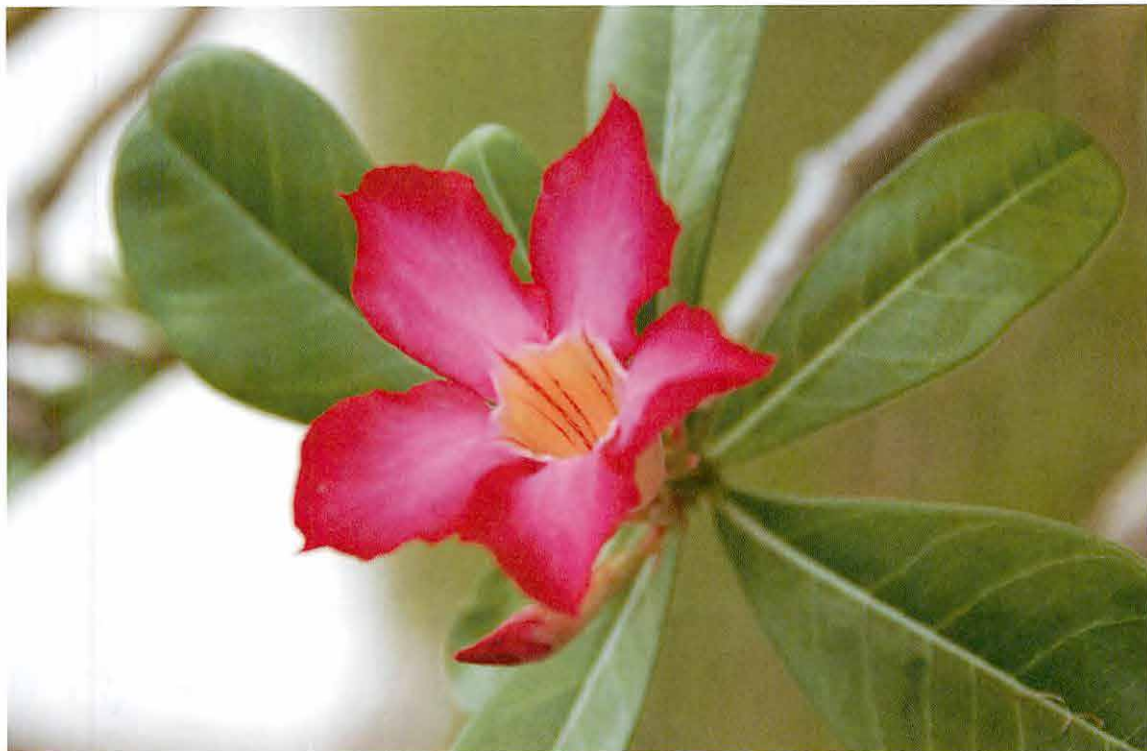


本部だより

●第 23 号

 マーシャル方面遺族会

●環礁・本部だより第 23 号 ●発行日：平成 23 年 2 月 1 日 ●発行人：黒川誠
●マーシャル方面遺族会本部：〒142-0051 東京都品川区平塚 3-4-17
●電話 03-3783-8382 ●FAX03-6410-4420 ●振替番号 00100-0-93487



ルオット島の慰霊碑側に咲くプルメリアの花（植樹）

謹賀新年

黒川誠会長筆

平成
23
年

2011



本部役員及び篤志会員

相談役

大給湛子

会長

黒川 誠

常任幹事

荒木常子

幹事

高林芳夫

山口良二

草場 寛

晝間志津子

岡野智津子

監査役

内海淑子

篤志会員

徳原徳子

山村 要

グレッジ・ドボルザーク

平成23年度

慰霊祭・総会・直会のご案内

会長 黒川 誠

今年の夏は厳しい暑さでございましたが、今年は会員、会友の皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年の慰霊祭・総会・直会を次の通り行います。

皆様お誘い合わせてご参加下さいますよう、お待ちしております。

■慰霊祭

日時 平成23年4月2日(土)

受付 靖国神社参集殿前 午前9時より開始致します。

◇当日は日曜日ではございませんのでくれぐれもお間違いないようご予定下さい。

◇本封筒をご持参の上、出席名簿とご照合下さい。本会専用のワッペンをお貼りになった方がみが昇殿参拝が出来ます。

慰霊祭 午前10時(ご本殿)

■定期総会 慰霊祭終了後、昨年と同じく「靖国会館」前にて記念撮影を行います。その後、同館2階「田安の間」にて正午より開催致します。

■直会(なおり)

総会終了後、その場所が会場となります。閉会は午後3時の予定です。

●お願い

◇同封の出欠はがきには、欠席の方も各項目にご記入の上、2月末日まで本部に到着するようにご投函下さい。

◇本会への年会費(3千円)、寄付金、直会費(一名4千5百円。当日のお申し込みは出来ません)、玉串料(一名5百円)は、同封の郵便振替用紙にて2月末日までにお送り下さい。

◇受付は毎年混雑致します。受付での現金の取り扱いは出来ませんのでよろしくお願い致します。

●九段会館に宿泊希望の方へ

◇予約は事前に本部にて済ませています。3月21日までに各自で直接お申し込み下さい。なお、宿泊費は8千190円(二泊朝食のみ)。夕食が必要な方は申し込みの時、別途お申し込み下さい。

◇九段会館(電話03・3261・5521)

平成22年度マーシャル方面遺族会

永代神楽祭(命日祭)齋行

本会の永代神楽祭は、靖国神社「みたままつり」の中、平成22年7月15日(木)午後2時より齋行されました。

出席者は、黒川誠会長をはじめとして、写真前列右より、荒木常子、内海淑子、富田キミ、佐藤知子、写真後列右より、星野綾子、吉田正明、晝間志津子、(写真係・草場寛)、9名の皆さん。

本会の永代神楽祭は、平成15年より始



直会会場での参列者の皆さん

められ、7回目。祭式次第を再度説明しますと、参列者は手水、お祓いの後、本殿に進みます。

定刻にご斎主以下ご奉仕員（神職、仕女）が本殿所定の座に着きます。

まず、神楽笛にて「祭り始め」の曲が奏され、ご神前に海の幸、山の幸をお供えする「献饌の儀」が行われます。

次にご斎王がご祭神の名前を奏上する「祝詞奏上」が行われます。本会の名前

は最終段階に「秋山門造命、山田道行命、柴崎惠次命、西田祥實命はじめ3万5千余柱の命」と読み上げられました。

次に、みたま慰めの「二人舞」が行われます。

次に「玉串拝礼」。黒川誠会長がご神前に玉串を奉奠し、出席者は合わせて「二拝二拍手一礼の作法（諸作法は、同封の「靖国曆」をご参照下さい）で参拝。

次にご神前にお供えしたご神酒などをお下げする「撤饌の儀」、斎王、奉仕員退下、参列者退下、参集殿控室にて直会が行われ、永代神楽祭が終了します。

「みたま慰めの舞」について

香淳皇后御歌

やすらかに

ねむれとぞおもふ君のため

いのちささげし

ますらをのとも

「私達の国を守るために尊い命を捧げられた、ますらをの皆様、どうぞやすら

かにお鎮まり下さいますように」と祈りを捧げられた御歌です。

みたま慰めの舞は、昭和12年11月30日香淳皇后様より戦没者に賜った御歌に、昭和26年12月靖国神社の依頼で宮内庁楽長、多忠朝氏おのたかしが作曲振り付けされた神楽舞で、永代神楽祭、月次祭などの祭典でも奉奏されています。



二人舞（靖国神社）

平成22年度

全国戦没者追悼式

晝間志津子(東京)

65回目の終戦の日を迎えた8月15日、東京千代田区・日本武道館において天皇・皇后両陛下のご臨席のもと、「全国戦没者追悼式」が行われました。

追悼式には、戦没者遺族の他、菅直人総理大臣を始め各界代表など約6千人が参列し、正午の時報に合わせて戦没者に一分間の黙祷を捧げた後、天皇陛下が「おことば」を述べられました。

当日は例年にも増しての目もくらむ猛暑の中、武道館に向かいました。田安門



会場（日本武道館）のパノラマ写真

入口での受付後、会場に向かう途中、遺族最年長の高倉千代香さん（96歳）と最年少の与那嶺鷹ちゃん（4歳・沖縄）が大勢の報道陣に囲まれて取材を受けている場面が印象的でした。

今夏は明治31年以降113年間のデータを比較すると最も高い気温であったようです。

厚生労働省の発表によると、この日の参列者は昨年より33人少ない4千7百88人で、同省が参列予定者5千人に事前に分析した結果、戦没者の妻が初めて50人を割り込み、過去最小の45人になったそうです。東京都の参列者は630人余。一方、孫は過去最多となる149人で、ひ孫は14人、戦没者の子は3千289人と最も多く、兄弟姉妹は701人だったと報じられています。なお、同日「東京都戦没者追悼式」が東京・文京シビックホールで行われ、本会を代表して黒川会長が出席されました。また、「靖国神社秋季例大祭」は例年

通り10月18日に行われ、黒川会長が参列されました。

徳原徳子さんを囲んで懇談会
岡野智津子

ハワイの徳原さん（本会篤志会員）が来日され、黒川会長と役員5名が集合して10月22日「横浜エクセルホテル東急」で歓迎昼食会を行いました。徳原さんは「4月の慰霊祭には出席したい」とのことと総会でのお話が楽しみです。



前列左から、黒川会長、徳原さん、高林芳夫、
後列左から、内海淑子、岡野智津子、荒木常子の皆さん



昨年
慰霊巡拝延期を
グレッグさんに
聞きました。

●マーシャル方面遺族会の慰霊巡拝（クエゼリン・ルオット）において平成17年よりご協力戴いている篤志会員のグレッグさんより、平成22年度現地慰霊巡拝が延期となった経緯を10月10日の役員会において伺いました。

グレッグ 2001年の同時多発テロ以降、米国の警備体制が強くなったことが原因の一つです。全世界共通の米国の基地が2008年、つまり私たちが現地慰霊に行った後に「慰霊団は歓迎しますが、これからクエゼリンに入るときは政府と政府の間の外交ルートで米国の防衛省に直接申請してくれないと現地での判断は出来ません」と司令官は言っています。原則として外国人は正式な入基地許可申請というシステムに従うということ

す。コンピュータの通信によって各部署各関係者に情報を発するシステムです。こういった統一したシステムがないと、テロリストが入り込む隙を与えてしまうということでしょう。

また、昨年日本遺族会のクエゼリン入島についての申請について司令部間でトラルプがあつたかに聞いています。基地においても司令官以下新しいスタッフの不慣れも手伝ったのだと思います。

それで、現地の基地の上部であるアラバマ州の司令部が外国人（団体）入島許可は公式な訪問でなければ受け入れないということになりました。

これからは日本政府から米政府にこのような団体が何月何日に何名で、パスポートナンバーはこれこれで、といった申請をしなければいけません。そうすると一週間以内にはクエゼリン基地まで通達されます。そして基地の司令官が承諾するということになります。

●旅行会社によると厚生労働省では「マーシャル方面遺族会は私たちの事業ではないので申請は行えません」というものだったようです。日本人としてはがっか

りしました。慰霊碑を建立した本会の慰霊巡拝に対して厚生労働省が支えてくれないのは本当に残念なことです。

グレッグ 私は米国人ですから何とも言えないのですが、今回のことは厚生労働省が申請してくれれば何の支障もなく実現したことです。基地側もその方法を勧めてくれました。

また、マーシャル諸島共和国がゲストとして招待するという形を取れば、マーシャルと米軍との正式なやり取りになつて実現する方法があります。

今回の慰霊巡拝についてはジベ・カプア大使、現地のジミー松永さん以下大勢の方たちにご協力を戴きました。

●それが現在も進行しているのですね。グレッグ そうです。ですが私たちがマーシャル政府にプレッシャーを与えることは出来ませんので返事はまだです。

●日本のアメリカ大使館への申請は可能ですか？

グレッグ それは出来ません。アメリカにある日本大使館にするものです。

●早速厚生労働省に出向いて申請方を相談します。（談）

遙かなる満州への旅 ハルビン、新京、奉天、安東、大連、旅順（8日間）

内海淑子（東京）

敗戦後引き上げて65年、満州へ行ってみたいと思いつながら色々な事情で諦めていたとき、急に実現の話が持ち上がり、姉（松江正子）と二人でツアーに参加することになりました。旅程は平成22年7月25日から8月1日の8日間です。



姉（左）とハルビン・ソフィスカヤ教会の前で

猛暑の7月25日、成田発中国南方航空13時25分発大連行きに乗るはずが、飛行機が来ません。太陽が西に傾き始めた17時10分、4時間遅れでやっと機上の人になりました。

叔父の玉砕

さて、内海家とマーシャル方面遺族会の関係からお話したいと思います。クエゼリンで玉砕した「常見登（海機1旅工駆3136）」は、母（内海静枝）の三番目の弟です。満洲新京で義兄に当たる内海軍三の経営する「大連大理石製作所」に勤務していました。父は素直な叔父を大変可愛がって居り、将来は自分の片腕にと思って居た様です。私たちは登兄ちゃんと呼んでいました。

私が幼稚園の卒園少し前に出征しましたので、出征祝いの夜眠くなって叔父に

甘えて家までおんぶして貰った事を覚えて居ます。

叔父は昭和17年の初めに兵隊検査に行き、即召集されました。父は何度かチチハルの連隊へ面会に行った様ですが、いつも演習に行っていると言われて仕方なく帰って来た様です。18年の12月に入り再度訪ねた所、全体が森閑として居るので変だなと思ったそうです。

吉田正明さんの記事（本誌21号）を読み12月7日の夜中に出発したと在りましたので、父が訪ねた時は出発した後だったのだと思いました。

戦後昭和22年3月に母の実家に叔父の遺骨が帰って来た日は梅の花が満開でした。母がクエゼリン島なんて初めて聞いた、何処にあるのか知らないけれど可愛想にどんな所でどんな死に方をしたのだろうと嘆きました。その後も母は良く此の言葉を口にして居り可愛想な事をしたと言って居ました。

「札蘭屯」のこと

戦死公報には大正11年9月5日生、昭

和17年徴収、海機1旅工駆3136、死亡区分戦死（在隊死）、死亡場所マール群島クエゼリン島、死亡日昭和19年2月6日、公報発、昭和21年3月26日、遺骨交付昭和22年3月16日を貰いました。諦めきれない母に代って叔父の本籍地の埼玉県庁に何度か足を運び此れしか資料は無いのですかと聞きに行きました所、以下の手書きが加わった書類をくれました。

旅団司令部並大隊本部玉碎ニヨリ関係書類ノ入手不能ナルヲ以テ昭和19年11月30日以前ハ不明。昭和18年11月16日臨時編成（甲）下令。同月20日軍用陸令第106号ニ依リ復帰完結。同日海上機動第一旅団第2大隊ニ編入。同日編成完結。12月6日南方派遣部隊の転用ノタメ札蘭屯出発。同月9日満鮮国境（他の書類のは安東と在る）通過。同月14日釜山港出帆。昭和19年1月11日マール群島クエゼリン島ニ上陸。同日ヨリ同基地ノ守備。2月6日戦死。

と以上の様な書き込みが在りましておぼろげに道筋が分かってきましたけれども何も分から無いまま年月が過ぎて居まし

た。札蘭屯が読めなくて厚生省に聞きに行きました。ぶつきら棒にサツラントンと言うので字の儘なのですと言いました。後に恵比寿の自衛隊の資料室でジャラントンと知りました。

父と慰霊碑制作のこと

昭和40年9月、姉正子が新聞にクエゼリンから霊砂が帰ってきたので横須賀の三笠艦で引き渡し式をする旨の記事がある、登兄ちゃんの島だと思っから行つて見ようと言うので、母、姉正子と1歳の息子、私で霊砂の引き渡し式に参列しました。この時からクエゼリン遺族会に入会してご縁が出来ました。其の頃は父と母が慰霊祭に参列して居りました。

浮田会長の時代に慰霊碑の依頼を受けて茨城県の稲田御影石で制作、当時の迎賓館、現在は庭園美術館で遺族の方々にお披露目をしました。これ以降は当時の事情で組み立ては現地にお任せしました。（注・次頁に慰霊碑組み立て写真を掲載）その後立派に完成した慰霊碑の写真などを見て安心したと話して居ました。現

地慰霊が出来る様になった頃、度々心筋梗塞の発作でお医者さんから10数時間の飛行機は無理です。と言われて現地を見ることなく亡くなりましたので、平成元年に母と私が父の遺影を持って現地慰霊をいたしました。

父は三井物産の傍系会社で富国石（御影石の人工石）を一手に製造販売施工を造っていた会社に勤務、会社が大田区糺谷に在った関係で糺谷に住み、姉と私は其処で生まれました。

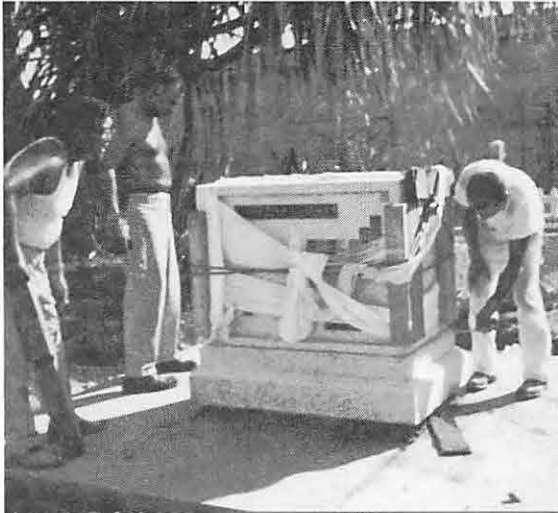
当時国内でも富国石を使って次々と大建築物が建ち、社命により昭和9年〜12年迄に満洲での大工事を次々と完成させ、その間国内では名古屋の愛知県庁、静岡県庁、東京の丸の内の現場と3つを掛け持ちで完成させました。今も愛知県庁と静岡県庁は古いのが残っています。

昭和13年将来の夢は満洲に在りと家族を伴い渡満、満洲新京特別市吉野町にて独立、大連大理石製作所を経営。此処で私達は育ち昭和20年敗戦を迎え、翌21年9月19日引き揚げるまで居りました。昭和20年8月9日ソ連が参戦して来ましたが、その頃子供心に変だなど思った事が

組み立てられた慰霊碑

現地に着いた梱包された慰霊碑 (右端が徳原さん)

写真提供 ● 徳原徳子氏 (昭和43年12月撮影)



故トクハラ氏 (後列右端)、徳原さんは同列3人目

所定の位置に着いた慰霊碑とボランティアの皆さん

梱包を解かれた慰霊碑 (部分)

在りました。軍人、軍属の官舎や官公庁の官舎からいつの間にか人々が居なくなりました。後で分かった事ですが民間人は捨てて、軍の家族や官公庁の家族をいち早く朝鮮経由で南下させ日本へ帰国させる予定だったので。余談ですが引き揚げてから藤原ていさんの「流れる星は生きている」の初版本を読んで私なりに理解したのは、朝鮮にたどり着いた時はすでに南北に分断されて38度線が引かれそこを超えて韓国に逃れるのに苦労した事が書かれてありました。

敗戦間際に関東軍司令部が空っぽだと連絡が在り近所の在郷軍人の人達が関東軍司令部に行き守りに着き父も一緒に帰って来ました。やがて8月15日の正午に天皇陛下のお言葉があるときいて近くの家に集りました。海外放送で雑音が多く子供には難解な言葉でさっぱり分かりませんでしたけれど大人の人達が泣いていたので日本は負けたのだと思いました。

その直後満人の暴動が起き遠くで鉄砲の音がして居ました。危険だからと隣組の人と皆で小学校へ避難し一晚を過ごし

ましたがその夜は土砂降りの雨が降り続き不安な一夜でした。それでも何事もなく帰宅出来ましたが、同級生は東新京で暴民に襲われて一晩中逃げ回り、年寄り

に抑留される事になりました。戦勝記念塔は残りを他社が完成させ塔の上に戦闘機が乗って居ると聞いて居ましたので、今度の満洲の旅で見えて来ました。

白寿の母

は逃げ遅れて殺されたり、幼い子供が泣くので見つけられて射殺されたり、もう駄目だから川で死のうとしても水が無くて死ねないので、高梁畑に逃げ込んでやがて朝が来たら満人が大声で呼んで居たそうです。蒋介石総統が「逃げ惑う日本人に危害を加えてはならない」と言われたから心配しないで出てきなさいと言うので助かったと話して呉れました。父も

母静枝は11月1日で満99歳（白寿）を迎え、身体の動きは鈍くなりましたが頭はしっかりして居て筆談で意思の疎通は出来ます。

ほとんどなく帰って来たのでとても安心でした。間もなくソ連軍が進駐して来ました。そして新京駅から真つすぐ南に走る中央

姉も私も一度は行って見たい所はやはり満洲でした。思い出の無い人と一緒に行っても詰らないから淑子ちゃんが行かれる様になるまで待っていると呉れてました。母が一人では置けないので

通りの先に大同広場のロータリーがありそこにソ連の戦勝記念塔を建てる様にと命令がありました。負けた国の悲しさだが建てるなら立派な物を建てるのだと言いながら仕事に励んでいました。

シヨートサービスに預けて一度で良いから行って見たいと考えて居ましたがなかなか決心が出来ませんでした。昨年の従兄の法事の時、従姉弟達が満洲に行くと言った時は正直羨ましく思いました。

そんな矢先の10月10日ソ連から軍籍届に来る様にと連絡が入り、在郷軍人は行かないと言う人も多い中、正直な父は軍籍届に行きそのまま捕虜になりシベリア

10年来の母のケアマネージャーさんが昨年10月に港区の自治省跡に「特養」が出来るので申し込んではどうですかとアドバイスしてくれました。私の介護の様

子を見て「ご自分の人生も大切にしなければいけません」とも言ってくれました。幸いに入所出来た特養は家と近いので週に二、三度母の顔を見に行け、母も喜んでいます。

結び

私が集めた情報ですが、叔父は12月6日札幌を出発して安東より釜山を経由して船にて南洋トラック島を経て19年1月11日マーシャル群島クエゼリン島に上陸と在りました。19年2月6日玉砕ですからクエゼリンに上陸してから僅か27日で戦死したのです。

また父が遺族会に一生懸命だったのも理解できます。日本で再び第一石材を経営する様になりましたも、時々登が居て呉れたらなと言いましたし、姉正子は未だに登兄ちゃんはクエゼリンに本当に行ったのかしらと言います。

今回の満洲の旅で図らずも中朝国境の安東（今は丹東）に行けたのはとても嬉しい事でした。機会がありましたら続きを書きたいと思えます。

マーシャル方面遺族会の ホームページ制作にあたり

会長 黒川 誠

本会の現地慰霊に関してはクエゼリン島、ルオット島両島に建立されている慰霊碑の慰霊巡拝は、慰霊碑建立以来より実施されて来ました。クエゼリン、ルオット両島は米軍の重要な軍事基地であることは私たちも皆承知していることです。しかしながら本会の遺族は、自分たちの肉親が両島で激戦の末全員が玉砕しています。そのことは65年も過ぎた今日でも忘れることはなく、悲願は続いています。それですから体調の続く限りは慰霊墓参を続けてまいりました。

クエゼリン、ルオット両島に慰霊碑を建立したことも戦没した英霊を永くお慰め出来ることを願って、当時の米軍基地司令官以下関係者のご厚意のもとで実現出来たものです。

当初は軍事基地として厳しい管制下にあったため墓参もかなり制約されたものでしたが、やがて本会の熱心な気持ち

理解されるようになり、クエゼリン島のロッジに宿泊して墓参が出来るまでになりました。

両島への墓参は慰霊碑のある本会員はいつでも最優先で入島の許可がおりて墓参が出来るものと信じておりました。しかしながら戦後65年も過ぎますと、基地のスタッフ組織もすっかり最近では変わりました。

まず、両島で激しい戦闘のあったことなど知らない世代が基地を支配するようになり、加えてその当時の歴史を知らない人達ばかりになりました。今日では私達会員の考えや意向など関係のない人達で基地が構成されて現在は運営されているのです。

さらにアメリカの経済状態はリーマンショック以来悪くなり、軍事予算も大幅に減額されているようです。現在では必要な人員だけになつている状態です。また、基地で働いている人達も次々と去つてゆき、今では当時の経緯を知る人達も物故された方々が多くなり、基地の組織が歴史を知らない若い世代になつているものですから、これからの慰霊巡拝は大

変困難となりました。従つて本会で申請すれば必ず許可された時代は既に昔話となつてしまいました。

ここで再考しなければならぬことはインターネットで歴史と伝統のある「マーシャル方面遺族会」をPRすることです。それには費用もかかります。初期費用は概算で50〜60万円位の費用が必要です。

何故、今になつてと思われる方も沢山居られると思いますが、これからはHPが是非必要であり、これによつて本会の存在を内外に広く知らしめたいと思います。パソコンは今では日本の家庭でも最低一台は普及しています。さらに年配者が扱いやすい機種も発売されています。

インターネットは米軍基地でも組織の人たちに開いて見られるものでしょう。これは現在の常識として私達の想像を遙かに超えて見られているものです。

今回、本会のホームページを立ち上げることは、本会の歴史と存在感を内外に認知度を上げる最後のチャンスかと思えます。大切な浄財を使うのですから、是非有意義にと考えています。

模型図は12ページを参照して下さい。

マーシャル方面遺族会 平成23年～24年度行事予定表

年	月	日	曜	開始時間	場所	行事
23	1	2	日		靖国神社	平成 24 年度本会「慰霊祭」の申し込み
23	1	2	日		靖国会館	平成 24 年度「総会・直会」会場の申し込み
23	1	16	日	午前 10 時	平塚橋会館	「本部だより」23 号の発送作業 他
23	3	5	土		九段会館	平成 23 年度「慰霊祭」参加者の宿泊予約
23	3	13	日	午前 10 時	平塚橋会館	平成 23 年度「慰霊祭」の準備会議 他
23	4	2	土		靖国神社	平成 23 年度本会「慰霊祭・総会・直会」開催
23	4	22	金		靖国神社	靖国神社「春季例大祭・当日祭」
23	5	15	日	午前 10 時	平塚橋会館	「本部だより」24 号編集会議 他
23	5					千鳥ヶ淵墓苑拝礼式（期日未定）
23	6	12	日	午前 10 時	平塚橋会館	「本部だより」24 号校正 他
23	7	5	火		九段会館	平成 24 年度「永代神楽祭」参加者の宿泊予約
23	7	15	金	午後 2 時	靖国神社	本会「永代神楽祭・命日祭」斎行
23	7	18	日	午前 10 時	平塚橋会館	「本部だより」24 号発送作業 他
23	8	15	月		日本武道館	全国戦没者追悼式
23	8	15	月		文京ホール	東京都戦没者追悼式
23	9	11	日	午前 10 時	平塚橋会館	「本部だより」25 号編集会議 他
23	10	9	日	午前 10 時	平塚橋会館	「本部だより」25 号校正 他
23	10	18	火		靖国神社	靖国神社「秋季例大祭・当日祭」
23	10					沖縄戦没者追悼式（東京都遺族連合会）
23						現地慰霊巡拝（期日未定）
24	1	2	月		靖国神社	平成 24 年度本会「慰霊祭」の申し込み
24	1	2	月		靖国神社	平成 24 年度「総会・直会」会場の申し込み
24	1	16	日	午前 10 時	平塚橋会館	「本部だより」25 号の発送作業 他
24	3	5	月		靖国会館	平成 25 年度「慰霊祭」参加者の宿泊予約
24	3	11	日	午前 10 時	平塚橋会館	平成 25 年度「慰霊祭」の準備会議 他
24	4	7	土		靖国神社	平成 24 年度本会「慰霊祭・総会・直会」開催

役員会本部会議室・平塚橋会館(03-3783-6849)

マーシャル方面遺族会

マーシャル方面遺族会とは、1960年（昭和35年）に確立された遺族会で、太平洋戦争時、中部太平洋マーシャル諸島のクワジェリン環礁（ケゼリン・ルオッド等）で戦没した日本人の遺族からできています。1967年（昭和42年）にクワジェリン島の米軍基地の中に慰霊碑を建てさせていただき、1975年（昭和50年）以降、現地慰霊祭を米軍やマーシャル諸島共和国の協力で行っています。



最新情報



会長からのご挨拶



クワジェリンについて



戦没者のご紹介



本会の歴史と活動



「環礁」本部便り



会員申し込み



WWW.MIBFA.COM

●上図は「ホームページ」のトップページの模型図です。言わば一戸建ての家の表札です。訪ねる人は「マーシャル方面遺族会」を探し、玄関に入ると数個のドアがあり、目指すドアを開けます。そうすると中は「ドラえもん」の「どこでもドア」となり、無限の世界が広がります。会員はもちろん、世界中の人々に検索され、本会の存在が知られることを希望します。■下図は他家を訪ねました。「ケゼリン」の表札を探すと約 16,700 軒があり、さらに「画像」を探すと 63 件がありました。下図は 1-8 件の写真です。

クエゼリン



ウェブ 画像

63 件中 1-8 件

セーフサーチの設定: 標準 変更

